

1 計画策定の趣旨

- ・計画策定の背景
- ・京都の使命と役割
- ・計画の目的、性格
- ・目標年次 2030年

2 現状と課題、社会の動き

(1) 京都府の現状と課題

- <現状・背景・受け継がれてきたもの>
- ・京都の生活、文化を育んできた自然環境
 - ・「海・森・お茶の京都」「竹の里乙訓」など多様な地域特性
 - ・大学等の充実した教育機関
 - ・町衆等の伝統的な中間組織の存在 …
- <課題>
- ・人口減少と少子高齢社会の本格化
 - ・気候変動による自然災害への対応
 - ・絶滅のおそれのある野生生物種の増加
 - ・プラごみ、海洋漂着物などの問題
 - ・担い手不足、知識や技術の承継 …

(2) 環境をめぐる動き

- ・SDGsの概念の普及
 - ・AI、IoT、5G等の技術進歩
- <国際的な動き>
- ・パリ協定、IPCC1.5°C報告書
 - ・G20大阪ブルー・オーシャン・ビジョン
 - ・生物多様性条約第14回締約国会議
 - ・POPRC14(PFOA廃絶対象物質追加勧告)
- <国内の動き>
- ・パリ協定長期成長戦略
 - ・第五次環境基本計画／第5次エネルギー基本計画／第4次循環型社会形成推進基本計画／水素基本戦略／プラスチック資源循環戦略
 - ・固定価格買取制度(FIT)抜本改正

3 京都府が目指す将来像(2050年頃)

暮らしや文化が自然と調和し共生する、脱炭素で持続可能な社会
 ～一人ひとりの夢や希望がすべての地域で実現できる京都府をめざして～

4 計画の基本となる考え方

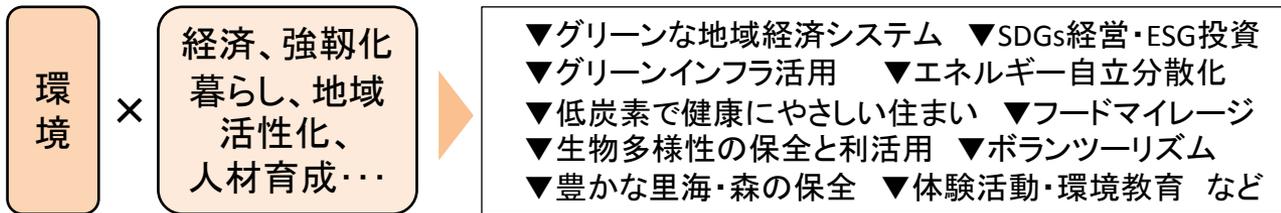
◎環境×経済×社会の統合的向上 (SDGs)

経済、地域などにさまざまな課題の同時解決を図るため分野横断的・統合的施策を展開
 環境を守ることが質の高い快適な生活、豊かな社会につながるような施策を展開
 「誰ひとり取り残さない」社会の実現に向け多様な立場や地域特性に応じた施策を展開

◎人材育成とパートナーシップ強化

主体的に参加する意識の醸成と環境・経済・社会や世代、地域等をつなぐ人材を育成
 行動促進とコーディネート機能を有する中間組織のさらなる連携強化

5 分野横断的・統合的施策の展開方向(2030年)



6 分野毎の環境施策の展開方向(2030年)

持続可能な脱炭素社会 に向けた取組

省エネ、再エネ、蓄エネ
EMS、VPP、エコ・エネルギーポート化

ゼロエミッションを目指した 2R優先の循環社会の促進

AI・IoT等技術活用・情報集約、
もったいない精神・エシカル消費促進
海岸漂着物・プラごみ対策

安心・安全な暮らしを支える 生活環境の保全

環境モニタリング、不法投棄対策
気候変動適応策、有害化学物質対策
エネルギー安定供給

自然と生活・文化が共生する 地域社会の継承

里地域の再生、多様な生態系の保全
外来生物対策、エネルギー地産地消
知見の集積・人材育成

京都らしい
地域特性に
応じた取組